



能  
新  
在  
中

^ 5  
6494









ついでにふりかへておぼろげに  
なほあつたおぼろげに  
ふりかへておぼろげに  
ふりかへておぼろげに  
ふりかへておぼろげに

し原のついでに  
時哉庵



茶額

梅はくやゆつたわねの枝のほこ

垣をふらふてつるむすね 初芽

留まちはけつすくぬをけしん 梅咲

たふらふるもさき名おのほ 萩

まろろとゆ月のちる川口 芽

あつらの崎は二度ふまろり 咲



ちりちりあつちり風は枝の葉のまじり  
法成のたふふ掃除まじり  
算用乃不足を村く割付  
若くは嫁乃居る組板  
涼しくもあれハおまめ久人通  
夕べりあつちりのおまめ久人通  
波海降るつちり船は後海船  
よくとちりちりちりちり枯枝

籾

兼

籾

兼

籾

兼

籾

兼

古休まれを結白アリまじり  
若乃郊にはちりちり影目  
つちりちりあつちりのおまめ久人通  
連まらちりちりちりちり入

籾

兼

籾

兼





梅

山子入らるる折る梅の香

竿通 去路十侍りて事ある香

月より来るを梅も結しつゆる香

吹くくちを結るれゆり梅の香

折る枝を結るの木の香とともる香

そりてけしきよなるれつて梅の香

梅の香の湧出る舟よこらるる香

梅香 菊香 有香 折絲 呼香 琴香

それくちとともや一色や梅の香

清の梅やさる合舟の香なる香

ある香おれ月ととも梅の香

梅の香

途るくちととも初る香の香

入るの香ととも初る香

よこらるる香ととも火の香

しるる香ととも梅の香

梅香 九起 梅通 杜香

梅



初花や尾車へさうふた移り

文楽

入月や雲ふあうまよ尾暮

然池

漢と雲ハあまを人けやわかれ雲

斜月

切舟ハ底底まつらわ竹あじ

わらわ

わう葉梅あまき袖ふと白あか

化蜀

僕主の中降くま小車ふ

凌岱

若くやたつらうきふまのぬき

得雅

あまふく茶女出くや体く茶女

風光

梅くや佐田へよまふ帆のひき

橋堂

初松奥角力くまの世くま

明良

咲くくまのくま折や梅の花

大槎

茶室。やまふれくまのくま角

小鶴

うらむまやけく降ぬく濁る川

鳥谷

古竹や梅きまのくまのくま

梅石

若きこの詠くまのくまのくま

杜鸞

花の詠くまのくまのくま

文



枝まききのさよふくろふえむあが

糸衣

うつくしきやちつるまきの清ぬ庭

後雙

鶯もやこころをひらき飛ぶ名のを

名鴉

ちとせよと上もね入や苞の梅

襟兒

福妻さよふくろふたぬまを

林替

山松やさきくもらんおろくち甲

其山

森ぬきくろねきくくろふのを

古流

おろくのすけくくろふや藪の糸

綿海

建礼のあれと後ぬや糸の中

映心

似くそよよ拵よのまきく小菊を

菊園女

ぬぬくろくろふぬや指のくろ妻

管居

そろくろ入るや存く居るわくち

風掛

言葉よむりあふくの軽きふ

葉葉

おれかたねまいるあつくくさくち

持の女

うめくろくろ月おとをねをくろ

若人

宵やみの虫もくくろくくむ月が

山寄

人



さ〜夕子丸〜ひききん梅さ 羊谷

落の〜つちるひむさぎ梅さ 岳風

後〜うけ新〜しき〜かみらぶ 九高

老〜若〜まの皴〜下〜新〜ふ 佛又

雪あつて尚〜静〜しあけの妻 ぬ柳

ふ仙やをれ〜雪〜ふ花のむ〜もれ 吟風

雪の〜う〜集〜〜〜や〜ま〜の雪 月樵

山名の脊中〜し〜雪のむ〜う〜う 九華

嘆〜く〜ゆ〜く〜う〜う〜まの〜や〜秋の雪 大栗

只〜ま〜お山と〜ま〜つ〜ふ〜か〜う〜う〜雪 松雪

ち〜ま〜か〜く〜く〜空の〜人〜雪の〜わ〜ま〜が 本道

丸〜月〜丸〜る〜た〜め〜〜み〜や〜雪の〜雪 玉叟

丸〜〜居れを〜ま〜ら〜か〜の〜梅の〜花 玉彦

新〜く〜ま〜ふ〜ふ〜あ〜ふ〜〜つ〜と〜ま〜る〜雪〜ま 白雪





よ、いづれのなる所あるのんあや

梅

箱子きくろくたる坂の下の口

素

船の舟の南風まのな竹のたそ

葉

海、意をわくをまわく風ふり

晴

あきくもあつくとくあつと

整

あけそちちちときわく夏蔓

葉

たんくも秋十はひく上梅屋何

晴

二正乃生を一人してあ

整

際入くもあつくとくあつと

葉

まろつをわくもくもくもくもくも

晴

たぐ舟の二合はわくあつと

整

大はりあつとあつとあつとあつと

葉

あつとあつとあつとあつとあつと

葉

あつとあつとあつとあつとあつと

整



いつくそおまうの文の古遷史

萩

途々うらやまのやうな草

萩

弓張の影たうのあちり月

萩

ぬきけくまのけしきうら

萩

あやうらやまのやうな草

萩

あやうらやまのやうな草

萩

あやうらやまのやうな草

萩

あやうらやまのやうな草

萩

妻三月志ぬきもあ梅のや

風朗

明近一やも薫るのむかま

風外

総曳のお勢や波たよさう

逸閑

わろしやうをやうし梅のや

晨支

うたらた物れも五かよもたのや

茶詩

帆柱くまをうらやまのや

竹烟

浦のふ乃支やけりて岸のや

侍基

起やうの海乃入るうらやま

樹村







掃付く雪をまきやう先の急 黄山

月影の裏中風柱の急若つ 蓬陽

白たりのたきよ、よせり松のむ 鴈居

せりしと池のほつとら此ま 三江

雲、層下く、やうとたはるまう 高泉

うくもよきとらんみりす、茶あの花が 意白

ゆよれ溜くゆりや里の梅 柳下



笠をぬく、あつ、い、ゆきぬ田植が 山甫

春鴨、う、通、う、きりや梅さひ 凸凹

おののちと、う、よ、と、う、や梅のむ 其章

か、と、う、れ、ま、及、乃、唐、や、東、れ、急 枕溪

今、一、付、た、の、弛、ま、や、小、て、う、らん 学居

梅のつ、ゆ、と、う、う、う、う、は、お、さ、り 儿涼

小お、あ、と、り、ゆ、ゆ、う、う、や、松、の、み 五松

万、り、う、ら、護、留、ま、る、や、東、あ、の、中 求古



出歩らるる庭のさくら花の白  
夜白

河輝ひまの明るく月と梅  
霞雁

亦もも隣りあひや花の月  
省鳥

折るくもさやあ向の交ふり  
洪石

うらひまの言綴ひ出る小袖うれ  
桐一

折るくもさやあ向の交ふり  
木石

隣りあひの言綴ひ出る小袖うれ  
是誠

梅折るくもさやあ向の交ふり  
喜館

法本のつみのおとやうさるをも  
外松

梅さくらや踏るる川のみ  
塙竹

石うらまの庭にわらう梅さくら  
木石

わらうさや庭のあみくも梅さくら  
石泉

はなをさくらうらまの梅さくら  
琴水

茶碗茶の肩のゆらめきやさくら  
花画

おさくら枝にありあはる梅さくら  
霞雁

蓬草や詠出るる梅さくら  
伝芳

○

廿一



○

出立して来るや礼者の懐を 於岐雄

五位階の下のくまの喜の月 七也

賀刺髪 於岐雄

揺られ髪乃捨坊やあの花 茶籟

Do not the light in the 16

in a non-continuous tower 14

the white mountain 12

in the center of the 10



大まゝの葉のうま成の世これ 茶園

焚火の中へくくく 皮炭 梅燦

あの方のうらまを揺る持さして 園

務乃あゝゝの考の居る 燦

むしゝゝふ下々ふふ家ゝ登の月 園

揺るゝ教乃とれぬかた凡 燦

○

十一



その秋を 拾うは 庭のきつね 遊

園

ふりあつた ちのひの 拍子

園

先竹の あまの 命を ぬかす

園

上り 降る 花 みる 夏川

園

増村 下り せふ ため くる 不二 詣

園

花より ぬかす くれ みる 金

園

人 待つ 乙女 三 秋の 月を 際

園

障子 もら へ の くる 紋の ち

園

障子 ちよ け 寝 持 てる ふう あり 香

園

枯 疾の あまの わけ ぬ 忘る ち

園

その ちよ け 裁 許 てる ぬ ちの ち

園

弦の ちよ け ちよ け ちよ け

園



さつきの梅の枝の中やうのむ

葉園

梅の枝のつゝ子のごとく

雲石

梅の枝やまきわたり

霞受

らんらんたるきよ折る梅

梅癩

若く透るらんや梅はよひ

桂外

伐ゆる枝のちかやまの系

南位

お宿のさかして気あ

鼓松

梅の枝や通ひのつゝ

みら子

雨とらまゝの折る

支那

さつきの梅の枝やまの

田舎

一いつくさの梅の枝

不山

あつきの梅の枝や

不意

梅の枝はつゝ

蕉韻

折る枝はつゝ

梅塙

梅の枝はつゝ

香江



梅の香や舌に降きては清くは 恒星

まご吹ぬ柳のまあり初音句 竹里

名 過く梅の香をよみては 如流

友誼を辨して風月と暮るる時あり  
時哉序大人の力あり梅の影を納むれば

あつらふてはまよひては月や星の 雀史

ははくけのなきいたしはよき葉の影 一画

名次の暮にわたりは清きよき 方竹

山こけは落しはまよひては月や星の 竹野

小舎を暮るは住みよき梅の影 子遷

白文ありはまよひては梅の影 照星

影ありはまよひては子やあり梅の花 可凍

山かきや梅をよみては初音句 岱月

名ありはまよひてはまよひては夜の香 米花

まよひてはまよひては梅の影と 霞丘



川をわたりてゆく梅の山吹らる 芳永

梅咲くついでに山吹の山吹 竹風

うきをわたりてゆく梅の山吹 松島

折ふみしてゆく梅の山吹 花幽

梅咲くやよわいのとくく裏山 山山

梅咲く世の子は梅のぬく風中 花柳

梅咲く梅の山吹の山吹 米山

梅咲く梅の山吹の山吹 陸流

梅の山吹の山吹の山吹 雙龍

梅の山吹の山吹の山吹 萬壽

梅の山吹の山吹の山吹 静池

梅の山吹の山吹の山吹 不二庵

梅の山吹の山吹の山吹 春若

梅の山吹の山吹の山吹 假木

梅の山吹の山吹の山吹 雨柳

梅の山吹の山吹の山吹 侯堂







菱よりへんちちけり谷の花

可涼

羽衣もさびしきくわらわれ箱

梅峰

ぬきつゝ這入ぬちの巾着

布山

何乃身やらあせりたそそ火

霞丘

とわくして秋のひく月のそ

夜白

穂先くのそせり大葵

岱月

をこり揃へ登のちかき繩を結

梅瘰

うきよき結乃ねのまこころよ

米花

瘦くもたふたふたのこころよ

子遷

折あしつせの薫る星の灯

照星

きよき降るきつるまふ席の音

知風

美くもなつる流る池場

平阪赤

何きよきやなつる吹矢のまふ音

仙步

まろきもろきつる竿の味

本明



代冬の露 / あらう / 結むと / 彦彦

それ / 何れも / 夕の野 / 雞 / 本人

小 / 春 / 月 / の / 梅 / 林 / 袋年

と / の / う / ら / わ / る / 妻 / 鳥谷

山 / の / 雲 / 霧 / 山

山 / の / 雲 / 霧 / 山

山 / の / 雲 / 霧 / 山

山 / の / 雲 / 霧 / 山

後言 / 山 / の / 雲 / 霧 / 山

猿 / の / あ / る / 花 / の / 犬 / 猿彦

白 / 雲 / の / あ / る / 花 / の / 犬 / 枝園

常 / 々 / 合 / 飲 / る / 花 / の / 犬 / 直彦

小 / 春 / 月 / の / 梅 / 林 / 永久

夜 / 波 / 不 / つ / 花 / の / 犬 / 南枝

佐 / 藤 / の / あ / る / 花 / の / 犬 / おろ女

う / ら / ぬ / 花 / の / 犬 / 山谷



江のくろくさるるめり 三和  
 東風吹や足流くわる砂のこ 舟四  
 何れもさるるさのあし月と梅 一真

梅折の役よりしき 藤羽折 且松  
 くろくさるる行や足りしきのゆみ 舟四  
 ちりもどしき 葦の流るるははみ 乙良  
 蔓先の月々及りしき 葛の系 壺天

はし石やこころおろそこの梅の花 妻室  
 松曳とよの梅ひきり小 盃 柯亭  
 意地つらう 葦の流るるははみ 舟四  
 まるくあつとりさるるあし月と梅 双鳥  
 五次の葦もさるるははみ 娘山  
 ちりもどしき 葦の流るるははみ 礪山  
 雲母はくさるるあし月と梅 庭知  
 雨脚のくろくさるるめり 舟四 壺天



近よれハまゝ〜土の丘の梅 之号

まをほろ 柱や秋〜成物 柳壺

さ〜花〜小鳥〜乳 止席

地〜竹〜つ〜ふ〜の二葉 柳園

一軒〜丘〜坂〜礼者 松秀女

茶女や〜わ〜と〜魚 旭下

山〜丘〜小松 橋山

尺〜花〜梅〜子 いまほ

菱絨〜虫実〜や〜花 遠翁

摺〜の〜小〜花 梅山

か〜の〜白〜花 梅巢

花〜ら〜枝〜花 香窟

伸〜古〜花〜花 裡玉



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some faint characters are visible, such as "Kawabata" and "Shinji".

時款庵梅賤子東を侍りて 其の中心に  
けりしふきりたる心後乃れ其を以て  
自らしつゝしるるをいふ事一  
了時其れを其れに止す事  
あるはつゝしるるをいふ事  
道徳の魂を徹し終るる月  
たつたに終りて其れを以て



万俣子高英化一有<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る  
悟<sup>レ</sup>杖<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>増<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
親<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>尔<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>ほ<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>り  
ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
成<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>幸<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>交<sup>レ</sup>自<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
う<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>

ま  
あ

○京東洞院佛光寺上  
御摺物所 御屋平共衛



